

# ふるさとわかまちづくり

## 公団保見ヶ丘自治区

### ◆「公団保見ヶ丘」の由来

名鉄豊田線の浄水駅から北へ4キロメートル、山に囲まれた中に高層住宅がそびえる大きな町が広がります。県下でも有数の約4000戸のマンモス住宅“保見団地”です。

保見団地は、東保見町、保見町の共有地でした。ここを売ろうという話が出たのは昭和38年頃ですが、工場か住宅かと随分話し合いました。一時はトヨタ自動車の住宅やゴルフ場という話も出ましたが、最終的には住宅ということになり、住宅公団、県、名鉄に売ることになりました。売買契約は昭和44年まで4年間かかったと当時の方から聞いています。

こうして、昭和47年から造成が始まり、3年後に入居できるようになり現在では4つの自治区ができました。

公団保見ヶ丘自治区は賃貸住宅として昭和50年3月から入居開始するも、当時は交通の便も悪く、入居者も少なく閑散とした住宅地でした。



昭和53年に住宅都市整備公団(現在の(独)都市再生機構)が一部分譲して、入居を開始し、昭和54年に正式に公団保見ヶ丘自治区として設立されました。

その後、名鉄豊田線が開通して、緑の多い住宅地として、人口が急増しましたが、保見ヶ丘4,000戸には程遠く、空き家が多くありました。

1990年に入国管理法が改正されて以降、経済の上向きともあいまって、派遣会社による外国人の社宅としての入居が始まり、平成12年には6,400人いた日本人が、現在、当時から比較すると、2,000人の減少をみました。その反面、外国人(ブラジル人)が4,500人を超えるようになり、外国人の多い(45%を占める)団地として全国的にも有名になりました。



自治区の課題として、外国人との共存、自治区民の確保等問題の多い自治区です。

### ※参考

世帯数 800世帯  
(区民250、加入率31%、  
貸住宅610世帯、分譲190世帯)



### 公団保見ヶ丘自治区データ (H21.4現在)

設立：昭和54年  
世帯数：340世帯  
252世帯(昭和54年)  
組数：78組  
面積：0.100K㎡  
自治区たより：「ハッピーほみかおか」  
回覧：月2回  
防犯灯設置箇所：38箇所  
小学校：東保見小学校区  
西保見小学校区  
自治区会館：公団保見ヶ丘自治区集会所